

日本IT書紀

011 手がかり

02 溟滓篇
卷之一 契機

佃 均



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。

第十一

手がかり

一

『戸谷深造さんと黎明期の情報産業政策』に出ている内容は、知らないことが少なくなかった。

知る由がなかった。

文中にある「J E C C 創立が昭和三十六年八月」に筆者は何をしていたかというと、父親の仕事の関係で移り住んだ新潟県の上野の「鹿瀬」という小さな町で、冬には雪かきで遊び、春には近くの土堤でノビルや蕨を採った。夏休みともなれば、とこどこに渦を巻く大きな川で泳ぎ、セミやトンボを追いかけていた。

それは決して比喩ではなく、実際、昆虫採集に夢中になっていた。小学校の図書館にあった昆虫図鑑を見たのをきっかけに、棲息してもいない金色をしたカナブンを捕まえようと考えたのだ。

社会というのは自分が住んでいる町の、さらに自分の家がある周辺半径一キロ、せいぜいが自転車で行ける隣町ま

で最大の範囲だった。トウキョーとは、山の向こうの遠い世界だった。

ただ、この業界に入ってからそこに知識が蓄積された。その中の一つとして片言の概要を知ったに過ぎない。ここでいう「概要」とは、つまり表面的な出来事という意味である。

河端照孝氏から受け取った小冊子には「情報処理振興事業協会等に関する法律」より以前の、国によるソフト振興策が描かれていた。すなわち「日本ソフトウェア株式会社」である。

ただし、筆者にとって、その会社の名前は初耳ではなかった。

東京・狸穴にあったEDPアプリケーション・システムズ（のちクロスキャット）の佐藤清社長から、

「この会社を作る前は、日本ソフトウェアという会社にいた」

と聞いたことがあった。

「会社が解散ということになって、社員の行き先を決めたり、事務所をたたむ段取りを取ったりしているうちに、自分の落ち着き先を決めるのを忘れちゃってね」

それで仕方なく、会社を起こした、という話だった。

この話を聞いたのは一九八五年ごろで、そのときは「そ

ういう会社もあつたのか」と気にもとめなかつた。時期尚早ゆえに失敗した企業、という程度の理解だつた。

改めて調べると、その設立に当たつては通産省の主導で日本電気、日立製作所、富士通の三社が出資した。大型プロジェクトの一環として、初年度予算は四億円、それを五年間継続して投入したという。

当時の四億円は現在の十数億円にも相当する。とんでもない「知られざる事実」が明らかになつた。もつとも、筆者が知らなかつただけかもしれないが、業界の常識では、

——国がソフトウェアに施策を講じるようになったのは、一九七〇年から以後。

ということになつてゐる。

一九七〇年の五月に成立・施行された「情報処理振興事業協会等に関する法律」によつて情報処理技術者資格試験が始まり、ソフトウェア製品への助成事業が始まつた。

さらに調べると、その発端となつた大型プロジェクトというのは、超高速電子計算機開発事業というのである。ものものしい名前だが、「超高速」といつても現在のパソコンにどれほど及ぶか、という処理速度ではなかつたか。

性能・機能において、IBM社が一九六四年四月に発表した「IBMシステム/360」に対抗しうる国産コンピ

ュータを開発することに目的があつた。

「IBMシステム/360」は全面的にICを採用していた。アプリケーション・プログラムを入れ替えるだけで、技術計算にも事務計算にも使える。オンライン処理もこなす。三六〇度の全方位、という意味で「360」と名付けられた。当時としては驚異的なマシンだつた。

だけでなく、「シリーズ・アーキテクチャ」というものが、このマシンから始まつた。

それまでの電子計算機は、同じメーカーのマシンであってもモデルが異なると、プログラムを別に作らなければならなかつた。自動車ごとにガソリンやタイヤを特注するのに等しい。

ところが「システム/360」では、業務プログラムを一つ作ればよい。小型から超大型まで同じアプリケーション・プログラムを動かすことができたのである。オペレーティング・システム、すなわち「OS」というものが決めた手だつた。

OSとは、コンピュータの機械動作をコントロールする基本的なプログラムの集合体である。データのインとアウトを制御し、ファイルやアプリケーション・プログラムを格納し、データやプログラムの格納場所、つまり「アドレス」を管理する。

その対抗機を作るには、OSを研究し開発しなければならなかった。さらに機械のエラーを監視し、運用するための技術も必要だった。国産コンピュータ・メーカーが単独で取り組むには、あまりにも荷が重かった。アメリカは国防と宇宙開発の莫大な予算を投入してコンピュータを開発していた。敵うはずがなかった。

——しからば日本も、国の予算を投入して取り組むよりほかにないではないか。

ハードウェアにバンドルされるソフトウェアには違いがないが、ソフトの開発——目に見ることも、手に取ることも触ることもできない。訳の分からないモノ——に国の予算が適用された初めてのプロジェクトがここに誕生した。

二

当初の構想では、筆者の卒業論文は、前述の「情報処理振興事業協会等に関する法律」が施行された前年の一九六九年から書き起こすつもりだった。ところが、「日本ソフトウェア」は一九六六年十月一日に設立されている。

さらに『戸谷深造さんと黎明期の情報産業政策』で語られているのは、一九五六年から日本ソフトウェアが設立されるにいたる十年間のいきさつである。

端折るわけにはいかない。

その経緯についてわたしはどうかというと、おおまかには分かるにしても、その背景や前後のいきさつなど、細かなことになると説明できない。日ごろ何でも知っているように振舞っている記者にとつて、分からない、説明できない、というのは何よりもつらい。

日ごろから部下に、

「調べて分からねければ、調べたことを書け」

と言ってきた。

つまりは、一九五〇年代前半のことを調べればいい。調べるには「何が分からないか」が分かればいい。

折よく、『ソフトウェアに賭ける人たち』という本が手に入った。二〇〇一年十月十五日初版、梅澤隆・内田賢共著、コンピュータ・エージ社刊。そもそもは情報通信産業労働組合連合会の機関誌に連載された記事をまとめたものであるらしい。

表紙に巻かれた帯には、

日本の情報サービス産業における、さまざまなビジネスモデルを構築し、新しいITの展開を目指した二十四人の先駆者たち

とある。

先駆者と言うなら、他に取り上げるべき人物がいるのではないか、という向きもあるだろうが、類書が広く一般に提供されていないことを思うと一定の役割はあった。事実、これに啓発されて続編ともいふべき個人史が編集されている。本書もそのうちの一つ、という捉え方もある。

計二十九人のプロフィールが載っている。

——この中から、当時のことを知っている人たちにインタビューすればいい。

と考えた。補完する資料は、新聞社や雑誌社に山ほどあるではないか。

だが、わたしは肝心なことを見落としていた。

そうした人々の年齢である。

三

同書に登場する人物たちがコンピュータと初めて出会ったのはいつのころだったのか。登場順に列挙する。

- 大川 功 〓 一九六二年
- 岡田昌之 〓 一九六八年
- 松尾三郎 〓 一九五八年

- 奥田耕己 〓 一九六一年
- 春日正好 〓 一九六一年
- 西尾 出 〓 一九五八年
- 狩野健司 〓 一九五六年
- 岸田孝一 〓 一九六〇年
- 北川淳治 〓 一九六〇年
- 北川宗助 〓 一九二八年
- 北小路轟 〓 一九七一年
- 小宮善継 〓 一九六八年
- 佐藤 孜 〓 一九八五年
- 佐藤雄二郎 〓 一九五五年
- 高原友生 〓 一九八四年
- 種村良平 〓 一九六三年
- 戸田保一 〓 一九五五年
- 鳥川美光 〓 一九五九年
- 大東 清 〓 一九五五年頃
- 富野 壽 〓 一九六一年
- 服部 正 〓 一九六一年
- 中尾哲雄 〓 一九七三年
- 金岡幸二 〓 一九六四年
- 野崎克己 〓 一九五九年
- 野澤 宏 〓 一九六六年

藤田史郎 〓 一九八八年

松平 緑 〓 一九六〇年

丸森隆吾 〓 一九七一年

村野兼雄 〓 一九八五年

『ソフトウェアに賭ける人たち』が編集されたとき、大川、松尾、西尾、大東、服部、金岡の六氏がすでに物故していた。さらにその後、北川宗助、鳥川美光、野崎克己の三氏が鬼籍に入っている。存命で一九五〇年代の様子を実体験として語ってもらえそうな人物は十指に足りるかどうか。

調べたいのは五〇年代前半のことなのだが、同書が扱っている人物のうち、コンピュータに最も早く出会った人でも一九五五年をさかのほらない。卒論の下調べに訪ねてきた学生たちと同じように、手がかりとしては心細い。

——さて、どうしたものか。

補注

イーディーピーアプリケーションシステム 一九七三年(昭和四十八)六月、東京・蒲田に資本金百万円で設立された「ニスコンコア」が七九年に社名を変更した。佐藤清、小林喜代志、尾野健治、白鳥進の四人が共同出資した。のち「クロスキャット」と改称した。

補完する資料 コンピュータ業界を専門に扱った最初の新聞媒体は「EDPジャーナル」(一九六八—一九六九)である。日本電子計算機開発協会系の出版社・EDP出版社が隔週刊で発行した。ほぼ同じ時期にマネジメント・サイエンス・クラブ(MSC)の会員制機関紙「ザ・デイリー・ネットワーク・ニュース」、日本能率協会発行の「EDPリサーチレポート」があった。また専門雑誌ではコンピュータ・エージ社社の「コンピュータピア」が最も古い。

登場する人物たち

大川 功 おおかわ・いさお／1926～2001…CSKG
グループ創業者

岡田昌之 おかだ・まさゆき／1936～2013…キーウエ
アソリユーシヨンス代表取締役社長

松尾三郎 まつお・さぶろう／1913～1998／日本電子
開発創業者

奥田耕己 おくだ・こうき／1937～2022…トランスコ
スモス創業者

春日正好 かすが・まさよし／1939…日本ナレッジ

ンダストリ代表取締役社長、アイエックス・ナレッジ代表取締役
役員長

西尾 出 にしお・いずる／1924～1992…日本ナレッ
ジィンダストリ創業者

狩野健司 アイネス代表取締役社長、会長

岸田孝一 きしだ・こういち／1936…ソフトウエア・

リサーチ・アソシエイツ創業メンバー、専務、最高顧問

北川淳治 きたがわ・じゅんじ／1927～2021…スタッ
トサプライ(ソラン)創業者

北川宗助 1908～2002…日本ビジネスコンサルタント、

日本情報開発(エヌアイデイ)創業者

北小路轟 きたこうじのぶ／1924…東京システム技

研代表取締役社長、会長

小宮善継 こみや・よしつぐ／1945…カタナ創業者

佐藤 孜 さとう・つとむ／1929～2012日立ソフトウ

エアエンジニアリング代表取締役会長

佐藤雄二郎 さとう・ゆうじろう／1933～2010…アル
ゴ21創業者

高原友生 たかはら・ともお／1925～2009…CRCソ
リユーシヨンス代表取締役会長

種村良平 たねむら・りょうへい／1940…コア創業者

戸田保一 とだ・やすいち／1930…野村総合研究所取

締役員社長、CSK副会長、アルゴ21技術担当最高顧問。

鳥川美光 1936～2001…日本システムデザインベロップメ

ント(NSD)代表取締役社長

服部 正 はつとり・まこと／1925～1983…構造計画

研究所創業者

中尾哲雄 なかお・つとお／1938 ……インテック代表取

締役社長

金岡幸二 かなおか・こうじ／1925～1993 ……インテッ

ク創業者

野崎克己 のざわ・かつみ／1928～2004 ……東京データ

ーセンター (TDCソフトウエアエンジニアリング) 創業者

野澤 宏 のざわ・ひろし／1942 ……富士ソフトウエア

研究所 (富士ソフトABC) 創業者

藤田史郎 ふじた・しろう／1929～2021 ……NTTデー

夕前代表取締役会長

松平 緑 まつだいら・みどり／1935 ……群馬電子計算

センター (ジーシーシー) 創業者

丸森隆吾 しまりゅう 創業者

村野兼雄 くららの・かねお／1929 ……日本電子計算代表

取締役会長

大東 清 1919～1997 ……日本システムデイベロップメ

ント創業者

富野 壽 とみの・ひさし／1937 ……構造計画研究所代

表取締役社長

二〇〇一年十月から二〇二三年一月までの間に、CSKグループ、

日本ナレッジ・インダストリー、アイネス、ソラン、カテナ、日立

ソフトウエアエンジニアリング、アルゴ21、CRCソリユーショ

ンズの八社が姿を消している。

一九六一／昭和三十六年の出来事

【首相】池田勇人

・豪雪で日本海側の列車百本が立ち往生

・米…キューバと断交

・米…ジョン・F・ケネディが第三十五代大統領に

・NHK朝の連続テレビ小説「娘と私」

・ソ…有人宇宙衛星ポストーク1号 (搭乗ガガーリン少佐) が地

球一周

・大阪環状線が全通

・米…有人宇宙船の打上げに成功

・韓…朴正熙ら軍事革命委員会がクーデター

・南アフリカ連邦がイギリス連邦から離脱して「南アフリカ共和

国」に

・社会党大会委員長に河上丈太郎を選出

・米駐日大使にライシヤワー着任

・農業基本法公布

・ベルリンが東西に分断 (ベルリンの壁)

・ソ…五十メгатオン核爆発実験

・小児麻痺が流行

・チー37号偽千円札事件

話題の人…三船敏郎／大鵬幸喜／柏戸剛／クレージー・キャッツ

／川上哲治／フランク永井／北沢彪

死没者…桂三木助／赤木圭一郎／金城マツ／柳宗悦／小川未明／

ゲイリー・キューパー／アーネスト・ヘミングウェイ／カール・グ

スタフ・ユング／リー・ド・フォレスト

歌謡曲…上を向いて歩こう／川は流れる／コーヒールンバ／東

京ドドンパ娘／スターラ節／硝子のジョニー

食べ物…マーブルチョコクレート／エンゼルパイ／クレープ／キッ

コーマン卓上ペン／ハイC

流行語…レジャー／プライバシー／不快指数／地球は青かった

書籍…極楽とんぼ／英語に強くなる本／何でもみてやろう／国民

百科事典

映画…(邦)名もなく貧しく美しく／モスラ／豚と軍艦／宮本武蔵

／用心棒(洋)荒野の七人／ウエストサイド物語／かくも長き不

在／蜜の味／ピリディアナ

テレビ…夢であいましょう／若い季節／シャボン玉ホリデー／七

人の刑事／ズバリ当てましょう

流行…タイトスカート／アンネ／テープレコーダー

日本IT書紀 011 手がかり

著 者：佃 均

発行者：（特非）オープンソースソフトウェア協会
<http://www.ossaj.org/>
info@ossaj.org

発行日：2023年4月10日

本作品は2004年-2005年ナレイ出版局より刊行された「日本 IT書紀」全5分冊を底本とし、原著者が一部改定を加えたものを複数の電子書籍に再構成して CC-BY-NC-ND ライセンスにより公開します。



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。